

【身近なワンヘルスの取組】

私たちのグループは、「ペットボトルキャップを回収する」という取組を提案します。

私がこの提案に関心を持った理由は、プラスチックごみの問題が一部の人だけではなく、福岡県に住む私たち全員に関わるとても身近な課題だと感じたからです。ペットボトルや食品の容器など、プラスチックは毎日の生活の中で必ず使うものであり、誰もが無関係ではられません。特にペットボトルキャップは、家庭や学校、外出先など、どこでもよく目にするもので、分別もしやすく、誰でもすぐに取り組むことができます。こうした小さな積み重ねが大きな環境改善につながると考えました。また、人・動物・環境がつながるワンヘルスを、日常の中で実感できる提案だと思いました。

【県民への伝え方】

「一つのキャップ、あなたの健康－福岡ワンヘルス」

これが私たちの提案するキャッチコピーです。

私たちは県民一人ひとりが身近に実践できるワンヘルスの取組として、ペットボトルキャップの回収・分別の推進を提案します。

ワンヘルスという言葉には人・動物・環境の健康は繋がっているという大切な考え方があります。しかし一方で、まだ多くの県民にとっては「大事なことはわかるけど、結局何をしたらいいの？」という印象もあるのではないのでしょうか。私たちはその課題に着目しました。

環境のため、未来のためという呼びかけはとても大事ですけれども、少し硬く、どこか自分ごととして取りにくい面もあります。だからこそ、私たちは身近で誰でも今日からできる行動に目を向けました。それがペットボトルキャップの回収です。

たった一つのキャップを分ける行動がプラスチックごみの削減や環境保全に繋がり、効果として人・動物の健康を守ることに繋がっている。その実感こそがワンヘルス推進の第一歩だと考えました。そして、この考え方を広げるためには、いいことを伝えるだけではなく覚えてもらう広報が必要です。

そこで私たちは広報案として「ワンヘルスあたりまえ体操」をご提案します。皆さんご存知のCOWCOWの「あたりまえ体操」というのがあるんですが、こちらのオマージュです。ワンヘルスは特別なことだけではなく、毎日の当たり前の中にあるキャップを分けること、ゴミを減らすこと、健康に気をつかうこと、そうした日常の行動が実はワンヘルスに繋がっている、それを音楽やダンスで楽しくわかりやすく伝えることが大事だと思います。さらに服部県知事にも出演していただき、一緒に踊っていただくことで、大きなインパクトと話題性が生まれると思います。

知事自らが楽しそうに発信することで、県民も「え？何？何？ちょっと見てみようかな」と興味を持つきっかけになります。テレビCMだけではなく、T i k T o kや

Instagram、学校や地域のイベントでも活用できれば、子ども達から高齢者まで参加できる福岡発の取組になると考えます。さらに飲料メーカーとの連携によるラベルの表示やQRコードの活用など、日常生活の中で自然にワンヘルスに触れる仕組みづくりも考えています。

【期待される効果】

この提案によって、ワンヘルスの認知向上、資源循環への意識の向上、そして動物や環境へのマイクロプラスチックの被害の抑制につながると考えています。

大きなことを始める前に、まず一つのキャップから。

「一つのキャップ、あなたの健康－福岡ワンヘルス」